

現代における道徳を偲ぶ

うめはら たかし
梅原 貴司

●全印刷局労働組合 中央執行委員長

新型コロナウイルスが中国武漢で確認されて既に2年近くの時間が経ちますが、未だ収束する予感を感じえません。それどころか新型コロナウイルスの威力は増し、人類にその猛威を奮っています。こうした状況に政治がどのような道標を国民に示すべきか、森田実先生からご教授頂いた孔子や孟子、老子の言葉が蘇ります。

そのなかで、今回は中国春秋時代に活躍されたという思想家老子の言葉から現代を映し出してみたいと思います。この老子ですが、本当に実在した人物なのか、神話上の人物か定かではないのですが、老子は隠棲するため国境を越える関所で役人から、隠棲するのなら、その前に教を説いて欲しいと請われ「老子道徳教」を書き上げたと言われていました。

現在、世界中は新型コロナウイルス感染症に慄き怯えて暮らさなければならない苦境にあり、また同時に私たち日本も4回目の緊急事態宣言が発せられるなど事態は好転するどころか、日に五千人以上の感染者が増え続け医療が崩壊しています。

こうしたときだからこそ、道徳教を見返す必要があると感じたので、老子道徳教について今回寄稿させて頂くことにしました。

①「天地は不仁なり、万物を以て雛狗（すうく）と為す」

「雛狗」とは犬人形のこと。天は非情だということだ。現在、人類は新型コロナウイルス感染症に悩まされている。新型コロナウイルス感染症は人類に対して容赦しない。もっと人間は自然に対して謙虚でなくてはならない。

②「上善は水の若（ごと）し」

最高の善は水のようなもので、万物の成長を助け、争うことなく、皆がさげすむ低い場所に行き、全体を潤す。

③「道を以て人生を佐（たす）くる者は、兵を以て天下に強はず。その事は還るを好む」

真実の「道」に従って君主を補佐する者は、武力によって脅かすようなことはしない。そのようなことをすれば、必ず悪い報いをうける。日本の歴史でも、織田信長に仕えた明智光秀、豊臣秀吉に仕えた石田三成、また三成に仕えた島左近など、君主を補佐しているときは平和主義者であったかもしれないが、君主に就くと何かに取りつかれるのかもしれない。今の日本政治にも重なる気がする。

④「夫れ兵は不祥の器、物或いはこれを悪（にく）む」

武器というのは不吉な道具であり嫌われる。

⑤「罪は欲すべきより大なるは莫（な）く、禍いは足るを知らざるより大は莫く、咎（とが）は得るを欲するより惨（いたま）しきは莫し。故に足るを知るの足るは、常に足る」

戦争の罪は諸侯が過大な欲望をもつことにある。満足することを知らないのが最大の災禍（わざわい）だ。常に足るを知ることが、真の満足である。

私は、森田実先生と20年にも及んでお付き合いさせて頂きつつ、師として仰いできました。その森田実先生から沢山のことを教えて頂き、そのなかから今日は老子について浅知恵ながら、披歴させて頂きました。

この機会に、81章（上篇37章、下篇44章）の全てを記述することは叶いません。今は新型コロナウイルス感染症を一刻も早く収束させることが最優先課題ではありますが、同時に超少子高齢化、子供の貧困、貧富の格差が拮がりつつあるなかで、どのように克服していくのか問われています。この現実と誠実に向き合い解決に向けて着実に歩みを進めるためにも、過去からの変化過程と現在を客観的な視点で見据えて日本国民全体の幸せを考え、そのうえで思想と哲学をもって政治が執り行われる時代が到来することを期待したいと思います。